

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名	第45回全国中学校バスケットボール大会	期間	27年8月22日(土)～8月25日(火)
開催地	岩手県一関市	会場	一関市総合体育館
参加者	浜本 伸	所属地区名	札幌地区
講師	玉木彰路二氏、田邊真由美氏		
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など	<p>玉木氏からは、震災から3年が経過し、今なお苦しい生活を強いられている方がいる中、その中にもバスケットを志している仲間がいることを決して忘れずにレフリングをしましょう、とお話があり身の引き締まる思いでした。また、田邊氏からは、来年度から実施される15歳以下のゾーンディフェンス禁止についてのお話があり、その目的に触れながら今、日本人に求められているものは何かを考え、またその技術を向上させるためにも我々のレフリングは大きな役割を担っている、ともお話がありました。またトラベリングの判定について、国際ゲームになると、多くは場面にとらわれずに歩いたものは、即笛が鳴るといったケースがあると言いました。日本チームが海外に出たときにそのギャップに困惑してしまうことが多くっており、NBL、WJBLではその基準に合わせて動いているということでした。ということは、将来、今のジュニアの世代が上のカテゴリーに進んだ時に困らないためにも、今の段階からしっかりと足元に対する意識を高めてもらうためにも、我々はきちんとしたジャッジをしていかなくてはならない、とお話されました。</p>		
実践実技1	<p>27年8月23日(日) 対戦カード 男子予選リーグ 巻堀(岩手) 対 久米(愛媛)</p> <p>主審 相手審判 福井 辻崎紀晶(公認)</p>		
ゲーム前のカンファレンス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スローイン時などは必ずアイコンタクトをしてはじめよう。 ・ナンバーコールは、新ルールではなく旧の方法で行きましょう。(事前にTOの生徒の状況を把握しておいた) ・3番エリアは、原則トレイルが見に行きましょう。 		
ゲーム後、主任からの講評	<p>鳥取A 高嶋憲彰氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなトラブルもなくスムーズにゲームは進んでいた。 ・ポストのポジション争いのところの整理はどうだったか。いくつか笛を入れるケースがあったが、他にも笛を入れても良かったケースがあったように感じた。 		
ゲーム感想	<p>ゲームに関しては、地元チームのゲームとあって、気持ち的にも集中していた。予選リーグの第一ゲームとあって互いに緊張した入りであった。講評にもあったが、センター同士のポジション争いのところがポイントになった。後半にも笛を入れるケースがあったが、もっと早い段階で整理しておけば後半はさらにクリーンなゲームになったのではないかと反省している。相手審判とのコンビネーションも概ねよくできたことで、自分のエリアに集中できた。ゲーム開始前に地元チームの選手達が突然ベンチエリアの外でユニホームに着替え始めたのは驚いた。コーチに注意を入れたが、まさか全国大会の舞台でこのような対応になるとは思わなかった。</p>		
実践実技1	<p>27年8月24日(月) 対戦カード 男子決勝トーナメント 北谷(沖縄) 対 津軽(青森)</p> <p>主審 相手審判 東京 草野伸明(A)</p>		
ゲーム前のカンファレンス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・トランジションの早いチーム同士なので、走り負けず、互いのエリアを意識しつつ、2人の距離が遠くならないように気をつけよう。 ・ナンバーコールについては、旧ルールで行きましょう。(ゲーム前にもTO生徒と確認) 		
ゲーム後、主任からの講評	<p>北海道A 工藤由佳氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体としては特にゲームを壊したり、流れを変えてしまったものはない。 ・京北のブロックショットへの対応をしっかりと見極めて欲しかった。いくつかはファールとしてコールすべきものがあつた。 		
ゲーム感想	<p>予想通りの速い展開となった。早いリズムからのショットも確立がよく点の入れあいの様相であった。出だしは北谷が有利に進めていた。津軽はなかなかエンジンがかからなかった。後半徐々にペースをつかんできた津軽が追い上げ、残り30秒のところ津軽が逆転し、そのまま守りきって勝利した好ゲームであった。触れ合いの多くは手の使いが多かったが、2人で概ね整理できたのではないかと感じている。途中ノーチャージエリア付近でのショットに対するコンタクトがあつたが、白黒つけなかったが少々残るケースであった。A級同士での運営であったため、基本自分のエリアをしっかりと担当することができた。</p>		

まとめ

しばらく全国の舞台から遠ざかっていたので、久々に多くの仲間との再会ができたことはよかったと思いました。ただ、行くからには最終日の割り当てをいただければとも思います。その点は反省すべきことが沢山あるように感じます。もう長いこと上級(A級)を経験してきてさらに上をを考える中で、これからの自分はどうあるべきかを自問自答する日々が続いています。コート外での立ち振る舞いだけでなく、コート上においても見せられなければならないのも使命であります。いずれにせよ、たゆまぬ努力を続けることが大切であると改めて感じております。このような機会を与えていただいた道協会森野理事長様をはじめ、審判委員長の北本健二様、ジュニア連盟審判長の田中充様のご配慮に厚く感謝いたします。ありがとうございました。